

佛敎學セミナー

第 2 号

佛敎における有形なるものと無形なるもの(上) ……舟 橋 一 哉… 1	——佛敎学と真宗学との接点——
祭祀とブツダの主張……………雲 井 昭 善…18	
弥勒と阿逸多……………桜 部 建…34	
梁代二諦思想の特質……………福 島 光 哉…45	——僧肇の二諦説との関連について——

書 評

Leon Hurvitz: 智顗(Chih-i)	
An Introduction to the Life	
and Ideas of a Chinese	
Buddhist Monk ……安 藤 俊 雄…56	
Lama Anagarika Govinda: Foundations	
of Tibetan Mysticism ……坂 東 性 純…64	
坂本幸男編: 法華經の思想と文化……………三 桐 慈 海…74	
山 口 恵 照: サーンキヤ哲学体系序説……………荷 葉 堅 正…79	
中国佛敎への道しるべ(2)……………横 超 慧 日…83	

1965年10月

大谷大學佛敎學會

佛教学セミナー

第 1 号

創刊のことば

大乘佛教について……………山 口 益
——その精神史観への一試攷——

天台法界観の系譜……………安 藤 俊 雄

鎌倉末—南北朝の唯識宗……………富 貴 原 章 信

『往生要集』の思想的意義……………坂 東 性 純

煩惱障所知障と人法二無我……………舟 橋 尚 哉

《書 評》

前 田 恵 学：原始佛教聖典の成立史研究……………桜 部 建

平 川 彰：原始佛教の研究……………小 川 一 乗

E. Conze : Buddhist Thought in India ……片 野 道 雄

早 島 鏡 正：初期佛教と社会生活……………大 淵 顕 信

中国佛教への道しるべ……………横 超 慧 日

《海外学界ニュース》

ウィーンインド学研究所の近況……………雲 井 昭 善

インド・ビハール州立四研究所の現状 (→) ……長 崎 法 潤

——ナールンダ・パーリ研究所——

¥ 200 〒 30

作られたり、逆に温厚な教学偏重派が現われたりする。ここでは近世学派の系譜が述べられる。

書志に関する一連のもの——「日蓮宗における法華経研究について」(p. 651~704)がある。ここには「日蓮宗における法華経関係文献目録」が附記され、日蓮宗の法華経関係の書物と、その性格が網羅されていることは特筆すべきことであろう。な

おこれに関連して第二篇には「法華経伝訳とその形態」(p. 227~248)があり法華経が世界の各国に流布していることを知らせてくれるし、第一篇の「インド文化と法華経の交渉」も西欧学者の法華経研究の論文が註記されていて啓発される所大きい。(昭和四十年三月 京都平楽寺書店 A5、四〇〇〇円)

執筆者紹介

舟橋 一哉

大谷大学教授・文博

※リボジトリ非公開

雲井 昭善

大谷大学教授・文博

※リボジトリ非公開

桜部 建

大谷大学助教授

※リボジトリ非公開

福島 光哉

大谷大学特別研究生

※リボジトリ非公開

安藤 俊雄

大谷大学教授・文博

※リボジトリ非公開

坂東 性純

大谷大学助教授

※リボジトリ非公開

三桐 慈海

大谷大学図書館勤務

※リボジトリ非公開

荷葉 堅正

大谷大学講師

※リボジトリ非公開

横超 慧日

大谷大学教授・文博

※リボジトリ非公開

編集後記

「佛教学セミナー」第一号が刊行されて以来、学内、学外の読者から沢山の意見と批判が寄せられた。それらはいいた、(一)純粋な学術雑誌に高めること、(二)啓蒙雑誌にすること、の二点にわかれるようである。

この雑誌を企画した際に開かれた編集会議の席においても、一部からそれらに類似した意見が提起されたこともあった。大学の佛教学会から刊行する雑誌としての性格上、単に啓蒙的な雑誌は相応しくない。また、読者の中には佛教学を専攻したばかりの学生、佛教学への入門者も含まれている。従って入門者を近づけず、啓蒙を忘れた高度の学術雑誌も当面では求められていない。そこで両点を折衷し、広い読者の求めに応じようとするのがわれわれの方針である。大学の研究室または研究所から佛教学の学術雑誌、研究年報等が刊行されている例は多いが、専門学者から入門者までを対象に

した雑誌は見出せない。われわれはこの線のもとに、純学術的と啓蒙的との両点に欠けるものをこの雑誌において育てあげてゆきたい。

更に、書評のページが多すぎるという意見もあった。がそれは、学問における批評はわが国にもっとあるべきと考えるからである。また最近佛教の研究書が数多く出版され、それらのすべてを通読することはなかなかできない。それで、それらの中から重要な新刊書の批評を専門の諸先生に書いていただき、できるだけ多く広い範囲にわたって新刊書の内容と批評に接していただきたいからである。

「佛教学セミナー」が誕生してからだ日が浅い。多くの改善すべきところもあるであろう。読者の御支援をお願いする次第である。(長崎)

佛 教 学 セ ミ ナ ー

第 2 号

昭和 40 年 10 月 20 日 印刷

¥ 200

昭和 40 年 10 月 30 日 発行

編 集
発 行

大 谷 大 学 佛 教 学 会

代表者 舟 橋 一 哉

京都市北区小山上総町22

印 刷

中 村 印 刷 株 式 会 社

発 売 所

文 栄 堂 書 店

京都市中京区寺町通三条上ル
振替 京 都 2 9 4 8 番
電 話 (2) 4 7 1 2 番

BUDDHIST SEMINAR

CONTENTS

Articles :-

- The Form and Formless in the Buddhist Thought (1)
 —A Nexus between Shinshū and Buddhist Scholarship—
 *Issai Funahashi* (1)
- Brahmanic Rituals and the Buddha's View *Shozen Kumoi* (18)
- Maitreya and Ajita *Hajime Sakurabe* (34)
- Characteristics of 'Two Aspects of Truth'
 in *Liang* Dynasty *Kosai Fukushima* (45)
 —relating to *Seng-Chao's* Theory of Two Aspects of Truth—

Book Reviews :-

- Leon Hurvitz: 智顗(Chih-i)
 An Introduction to the Life and
 Ideas of a Chinese Buddhist Monk
 *Toshio Ando* (56)
- Lama Anagarika Govinda:
 Foundations of Tibetan Mysticism *Shojun Bando* (64)
- A Comprehensive Study of the Saddharmapundarika
 and its Influence edited by Yukio Sakamoto... *Jikai Mitsugiri* (74)
- Esho Yamaguchi: An Introductory Study,
 The Sāṃkhya System of Philosophy *Kensho Hasuba* (79)
- A Guide to Chinese Buddhism (2) *Enichi Ocho* (83)
- Reports :-** (96)

PUBLISHED FOR
 THE SOCIETY OF BUDDHIST STUDIES
 OTANI UNIVERSITY
 KYOTO, JAPAN